

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

〔 学部企画報告 〕 情報デザインの国際展開

著者	大嶋 良明, 和泉 順子
出版者	法政大学国際文化学部
雑誌名	異文化
巻	15
ページ	18-20
発行年	2014-04
URL	http://hdl.handle.net/10114/9360

[学部企画報告]

情報デザインの国際展開

大嶋 良明・和泉 順子

情報学分野は、工学的な視点だけでなく文化情報学、社会科学、行動経済学等多くの学術分野と関連する学際領域であり、また芸術作品やデザインのツール、広告等の情報発信としてのメディア等、社会生活を構成する手段としても広く認知されている。そのため国際文化学部の卒業生をはじめ情報学を学んだ学生は、数年前は存在しなかった会社や職種に就くことも多く、その進路は多岐に渡る。本企画では、海外で情報学分野の仕事に就いている方々を遠隔会議システムでつなぎ、携わっている仕事の内容や日本と居住国の間にある仕事に対する意識や取り組みの違い等についてお話を伺った。講演者はほぼ同年代（35歳前後）の男性1名および女性3名であり、接続拠点は ロンドン－シンガポール－京都－バンクーバー－東京（法政）の5拠点である。

今回の学部企画は4名の講演者に「情報学に関わる仕事と海外での生活」を軸としたお話を伺った後に質疑により理解を深めるワークショップ形式で実施した。これにより、学部卒業後にどの国や地域で生活し、どのようなキャリアを築くのか、働き方の可能性を探ることを端緒として情報学関連分野の国際展開について理解を深めることを期待した。

なお、多地点の映像（講演者およびスライド）・音声を結ぶ手段として、大学設備として設置されている遠隔会議システム Polycom の利用を検討したためボアソナード・タワー 26 階 A 会議室が会場として確保された。この Polycom を用いた3拠点の導通試験（法政大学

内2拠点+シンガポール国立大学)は事前に問題なく完了していたため、他拠点でも Polycom が利用できる場合はこのシステムを利用するのが最も安定かつ高品質であると思われる。しかし、カナダと京都の拠点が調整段階で Polycom 利用不可であると判明したため、他手段として BigBlueButton (BBB) の準備と他の代替手段の検討 (Google ハングアウトおよび Skype) を始めた。各拠点とは当日までに複数回にわたって個別に上記 BBB を用いた接続試験を行っていたが、映像やスライドの共有は大きな問題なく利用できるものの音声を通らなかったり数秒遅れたりするトラブルが発生していた。このトラブルは当日午前中に行ったりハーサルでもが確認されたため、企画当日は改善の策 (代替策) として Google+ のサービスの一環である Google ハングアウトを利用して上記5拠点を結んだ。

講演者の内、本学部卒業生である中村氏が自宅ネットワーク環境の不具合により急遽職場からの途中参加となるなどの不測の事態はあったものの、Google ハングアウトは安定的に動作し、映像も音声も資料スライドも問題なく閲覧・会話することができた。また、演者の映像の横に文字ベースでの会話 (チャット) も表示できていたため、講演内容に関する質問は会話で行われたが、それ以外の簡単な質問 (例えば、「外が暗いようだが現地が今何時なのか」、「既知の風景が見えたが会社はロンドンの何処か…」などの講演内容以外の質問) が随時文字情報として映し出されていたため和やかな雰囲気であった。講演内容は主に、シンガポール国立大学の佐藤氏からはシンガポールの ITS 事情と情報技術の国際標準化活動について、ATR (国際電気通信基礎技術研究所) の吉田氏からは、私立女子大の心理学専攻から脳科学に関する情報学的研究に携わるまでのキャリアパス選択とロンドン大学勤務時の様子について、Rainmaker の真狩氏からは、居住しているバンクーバーでの生活と3Dアニメーション、特に映画製作を希望した場合の仕事の在り方や内容について、USTWO の中村氏からは本学部卒業後のキャリアパスと就職時の状況や心構え等であった。

学部企画の告知が直前となったためか学生の参加が少なかったのは残念であったが、講演者らはワークショップ終了後もしばらく遠隔地を繋いだままで話を続けており、普段異なる分野の仕事内容や動向を聞いたり質問したりする機会があまり得られないため大変面白かったと好評であった。

最後にご支援を賜った関係各位に深く感謝申し上げたい。今後の交流を予感させる実り多い機会を提供できたことを喜ばしく感じており、継続的な試みとしたい。

●日 時：2013年7月15日（月）15:10 – 16:40

●会 場：法政大学市ヶ谷キャンパスボアソナード・タワー 26F
A会議室

- 講 師：1. 中村麻由（ロンドンより参加）
法政大学国際文化学部1期生
（SAシェフィールド、大嶋ゼミ）
現在 USTWO勤務。UXデザイナー
2. 佐藤雅明（シンガポールより参加）
現在、シンガポール国立大学（Visiting Senior Research Fellow, KEIO-NUS CUTE Center）勤務。
インターネット自動車に関する研究、国際標準化活動に従事
3. 吉田和子（京都より参加）
2007年3月より University College London (UCL) Welcome Trust Centre for Neuroimaging 博士研究員、
2012年3月よりATR（国際電気通信基礎技術研究所）主任研究員。
計算モデルを用いたfMRI実験による脳機能の解明に従事
4. 真狩和加子（バンクーバーより参加）
Polygon Pictures勤務を経て、2006年8月から Vanguard Animation (Vancouver)、2008年7月より Rainmaker (Vancouver) 勤務。Character Pipeline TD
-